

令和2年八幡市議会第3回定例会
請 願 文 書 表

受理年月日	令和2年8月31日	受理番号	第 1 号
請 願 者 住所・氏名	京都府八幡市欽明台中央 15-5 吉川俊二 他 85 名		
件 名	子ども一人ひとりを大切にする、感染症にも強い、安心・安全な少人数学級を求める請願		
紹 介 議 員	中村正公		

請願要旨

私たちは、八幡市に在住する元教職員およびかつて八幡市内の学校に勤務した経験を持つものです。学校教育に携わったものとして、新型コロナウイルス感染の危険の中で学ぶ子どもたちに、安心・安全な教育環境と豊かな学校生活が保障されることを強く願い、以下の趣旨で請願するものです。

緊急事態が解除され、八幡市でも6月1日から学校が再開されました。3か月に及ぶ長期の休校は、学校の存在の大切さを再認識させてくれました。学習はもちろん、遊ぶ、話す、食べる、考え合う、交わる。子どもと教職員で織りなす学校生活全体が子どもの成長と保護者の安心を支えていたことを改めて教えてくれました。

しかし、学校は再開したとはいえ、長期の休校明けの上、新型コロナ感染を防がなければならないという状況の下で子どもと保護者は新たなストレスと不安を抱えています。教職員も経験したことのない負担と混乱の中で子どもの命を守りながら、教育活動を展開するという困難な課題に取り組んでいます。

再開後の学校では感染予防対策を徹底するとともに、子どもの健康状態の把握や心のケアを細やかに行き、子どもの学習・成長・発達機会を保障していくために、一人ひとりへのきめ細やかな対応がこれまで以上に求められています。

コロナの時代に、真に子どもを大切にする学校にしていくためには、安心・安全な少人数学級のすみやかな実施が必須です。文部科学省の「学校の新しい生活様式」でも、新型コロナウイルス感染症が長期化する中で、1～2mのソーシャルディスタンスが必要と呼びかけています。40人学級では子どもの感染を防ぐための身体的距離もとれません。

これから必要となる子どもたちのケアや、学習の遅れへの対応も、40人学級では非常に困難です。全国各地で実施された分散登校中の少人数授業で、一人ひとりの顔がよく見えることや、授業がよくわかることを、多くの教職員も子どもも実感しました。全国知事会会長・全国市長会会長・全国町村会会長も少人数学級の実施を求めています。

国に対して国の責任で早急に30人学級、その後すみやかに20人程度の学級への移行を実現するよう、京都府に対しては独自に20人程度の学級編制が可能になる編制基準を定めるよう、八幡市からも強く働きかけてください。

八幡市においては、こうした規模の学級編制に対応できる教室の確保や人員確保などの条件整備をいち早く進めてください。また、八幡市内の小中学校での少人数学級選択を推進し、独自で行える環境整備をさらに進めてください。

真に子どもを大切にする学校という意味では、授業を詰め込みすぎず、仲間との学びと豊かな学校生活を保障することも重要なことです。文部科学省は、授業の遅れは2～3年かけて取り戻せばいい、心のケアを大切にするという方針を示しました。全国的に見ると、7時間授業をしたり、土曜日も授業をしたり、行事を削ったりしている例が見られます。楽しみな行事も大切にし、子ども

たちに仲間との共同の学びと豊かな学校生活を保障するよう、必要な措置を十分にとるよう国や府に求めるとともに、八幡市としてこの方向性を堅持することを求めるものです。

日本の、京都の、八幡の子どもたちがコロナの時代にふさわしい教育条件の下で学校生活を送れるよう、以下お願いいたします。

請願事項

1. 子ども一人ひとりを大切にする、感染症にも強い、安心・安全な少人数学級のすみやかな実施を国・京都府に強く求めて下さい。
2. 子ども一人ひとりを大切にする、感染症にも強い、安心・安全な少人数学級に対応できる条件整備を進めてください、
3. 授業を詰め込みすぎず、仲間との学びと豊かな学校生活を保障してください。

議決結果・・・令和2年9月24日 不採択